

兵高教組

確定速報3号

2012年11月13日 調査情報19号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL : 078-341-6745
FAX : 078-351-3185
URL : http://www.hyogo-kokyoso.com
mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

だまし討ちの県「行革」は許さない!!

高教組・高従組・兵庫教組の合同交渉団は、11月8日、県教委との第2回賃金確定交渉を行いました。松田教育次長は、「行革」カットが5年限りの約束であることをうやむやにしようとする一方、現給保障の廃止・55歳超職員の昇給停止・引下げ勧告の不利益遡及・住居手当の廃止など、賃下げを「課題と認識」と回答しました。これに対し、交渉団は厳しく県教委の姿勢を追及しました。



第2回賃金確定交渉(11月8日)

「賃金は上がらない、子どもの教育のために必要な教材も買ってもらえない。超過勤務が増えるのに残業手当も出ず、勤務の割振りもままならない。これで頑張れと言われても頑張れない。子どもに関わることにはお金を使え！」フロアから厳しく当局を追及する稲次書記次長

県民・職員に犠牲を押しつけ続けるための県「行革」

交渉団は、兵庫教組の岸本書記長から、行革について

自治体財政の指標である「実質公債費比率」・「将来負担比率」は目標を上回る改善があったと報告されているのに、次長はそれらについて言及せず、いたずらに財政危機を喧伝し不安を煽っている。しかも、2012年の見直しでこの改善が活かされず、借金の多さを意図的に強調しているのではないか。(右ページに図)

県税収入の予定と決算が大きく離れてい

るのは、意図的に「税収不足」を強調するためではないのか。職員の賃金をカットし、県民の福祉を削る道具に使っているのではないか。

借金の原因となったムダな公共

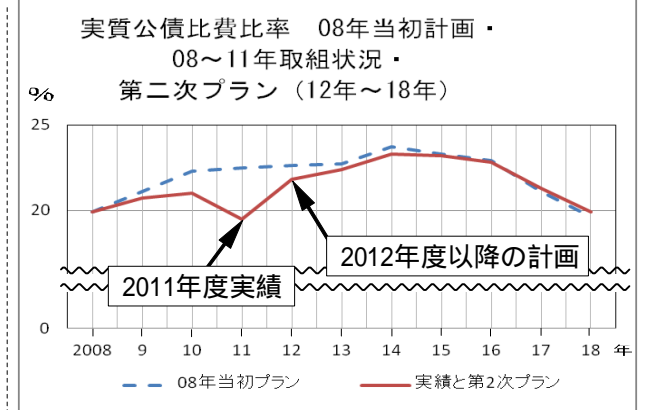


当局追及の先頭に立つ、中村書記長(左)、兵庫教組岸本書記長

事業や大企業優先の施策を止めず、しわ寄せを県民・職員に押しつけている。北近畿自動車道を八鹿まで延伸するなら、但馬空港が必要か。福祉を削る一方で、パナソニックに160億円も補助金を出し、神戸空港と関空を結ぶトンネルを掘ることを、県民が望んでいるのか。

県「行革」は既に失敗している。職員の賃金カットを止め、県民の福祉に予算を傾注して、県民の懐を暖めることによって財政の改善を図ることこそが本当の行革だ。県教委の見解を示せ。

と、県教委を厳しく追及しました。



実質公債費比率(収入に対する借金返済の割合)は、2011年実績(実線)では当初プラン(点線)より大きく改善しているのに、2012年に見直したプランでは再び「悪化」する計画にしています

「行革」カット(一般職員月額4.5~5%) 当局から切り出した5年の約束 反故にはさせない!

また、「行革」の賃金カットについては、07確定交渉の最終回答は5年間であり、県教委が発した通知にも「平成20年度から平成24年度までの5年間」と書かれていたことについて、交渉団の確認に対し「誠意を持って毎年度協議させていただくと対応した」と、あいまいな回答に終始しました。永井副委員長は、「5年という年限を全く認識せずに検討

しているのは大問題だ。当局から5年間と提案があり、我々は最大でも5年間、それ以内でも可能性があれば見直すべきことだったと認識している。5年の提示がなかったことのような回答は職員に対するだまし討ちだ」と追及しました。これについて交渉団は、次回改めて回答するよう、強く要求しました。

やる気につながる、県の姿勢の転換を示せ

松田次長は、今期確定の課題として、
：自宅に係る住居手当の今年度の減額と来年度の廃止
：調整措置 = 住居手当引下げを今年度4月に遡って実施
：55歳超職員の昇給停止
：現給保障の国並み廃止
：勤勉手当の成績率の国並みの改善
などの賃下げと、

：明石海峡大橋を使用する場合の通勤手当
：勤務時間の適正化
をあげました。雨松委員長は、「55歳昇給停止、退職金削減、現給保障の廃止は、とても

受け入れられない。これらは提案せず、次回交渉では、『これでやっと県民のために仕事ができる』と思えるような、県の姿勢の転換を示していただきたい」と要請しました。

8大要求署名

署名用紙を高教組HPにUPしています。(「兵庫高教組」で検索) 遅れても今からとりこんでいただける分会は、11月21日(水)の第4回交渉には提出できるよう、本部まで送って下さい。